日本ソーシャルデータサイエンス論文誌
第 1 巻　第 1 号（2017 年 3 月）

# 情報セキュリティ研究部会の活動について

森 邦彦[†1]

近年，ネットワーク，携帯端末や RFID・IC タグ，ioT などの発達と普及に伴いそれらから生成される膨大なデータの利活用が注目されており，これらのデータを総称してビッグデータと呼んでいます．ビッグデータは多源性，多種性といった特徴があり，その量すなわち量的な問題と，どのように利用するかという質的な問題の両面で従来のデータ処理とは大きく異なっています．このビッグデータを効率良くセキュアに利用し社会に還元することが出来れば，これまでにはなかった新たなサービスが展開できる可能性があり，当学会の主要なテーマの一つとするところです．

しかしながら，質的な問題と量的な問題でこれまのデータの取り扱いとは大きく異なっており，急速にこの技術が立ち上がったこととも関連し，セキュアに利用するための手法や技術，規範などが立ち遅れています．社会に大きな可能性をもたらすこのビッグデータは，このままではとても心もとないものになってしまいかねません．我が国においても総務省や経済産業省が中心となって基盤整備を急いでいます．

本部会においては，これまでのセキュリティ技術を土台として，ビッグデータの利活用に際して必要な情報セキュリティとは何か？最適な手法とは？といった観点から調査研究を行っていきます．

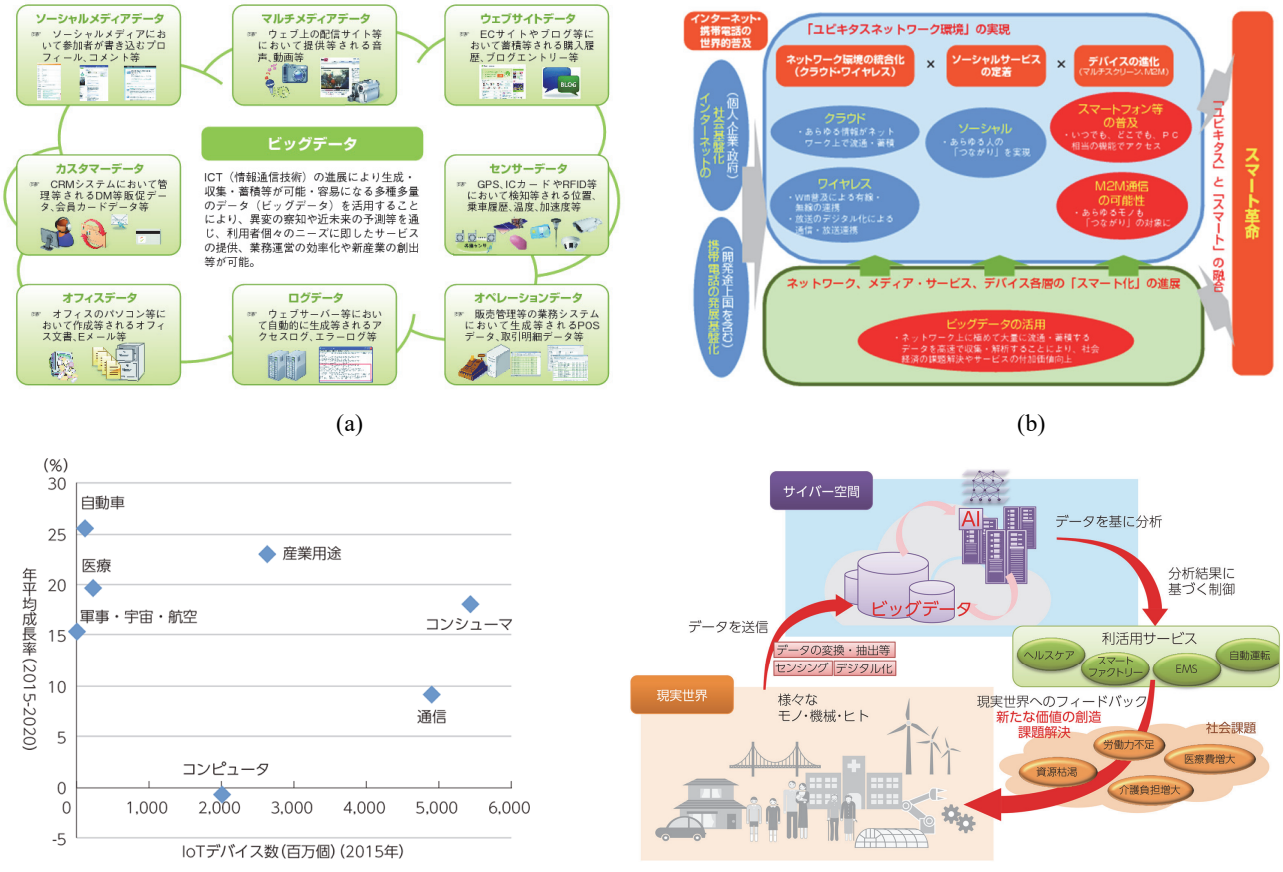


図 1　(a) ビッグデータを構成する各種データの例 (b) スマート革命 (c) 分野・産業別の IoT デバイス数及び成長率 [1] (d)ビッグデータ等の新たな ICT によるイノベーション [2]

[1] 平成 24 年度総務省情報通信白書より，[2] 平成 28 年度総務省情報通信白書より

†1 鹿児島大学　（連絡先：mori@cc.kagoshima-u.ac.jp）

ⓒ 2017 Japan Social Data Science Society